



日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ



2015年
1・2月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我 秀一

印刷所
文明堂印刷所

あなたの罪は赦される

司祭 パウロ 瀬山 公一

罪の赦し

あなたの罪は赦されると言われても、実感できないというのではないのでしょうか。またどうしても赦すことができない、ということもあるのではないのでしょうか。愛されることで、人を愛することができ、赦された経験は、人を赦すことを可能にします。本当

十字架への道

に愛され、赦されていると感じることができなければ、人に与えることは難しいのではないのでしょうか。まずは赦すということではなく、赦されていると感じることが重要なのです。

昨年10月末に8日間の霊操をさせていただきました。黙



想の家では、十字架の道行を歩きながら、キリストの十字架に想いを寄せることができます。初めのうちは講話に沿って、論理的に考えをまとめようとしていました。数日する

と理屈を超えて、感性が強くなり働くようになっていきました。

理論的には赦されていることを知っており、信じていても、感覚的に受け入れられないことが多くあります。いくら自分を納得させようとしても、困難であり、一時的にのみまかすことしかできません。

十字架からの道

キリストの十字架を想う時、目に見える身近な人々や出来事を意識してしまいますが、その始まりはもろろんキリストです。一粒の種が地に落ちて多くの実を結ぶように、初めにキリストが十字架にかかってくださったのです。その後弟子たちが次々と引き継いできたものが、今のわたしたちにつながっています。

客観的に横から見ると、そ



左2番目が黙想指導者の清水神父、中央が筆者

ではなく、キリストがこちらに来てくださるのであるのです。

体をめぐる血液

教会は、信徒を体(世界)の隅々にまで送り出す心臓のようなものであるとの講話がありました。

そして帰ってきた血液を迎え入れるのが心臓です。疲れた人々をやさしく迎えてくれる、それは理想的な教会の姿です。しかし心臓は血液をきれいにするわけではありませ

の繋がりを理解することはできません。しかしキリストを実感することとは違います。主観的に人々を通してキリストを感じようとすると、人間の現実の姿は邪魔になります。黙想を続ける中で、キリストを受け継いできた人々の繋がりを想いながら、人々の姿が薄れてきたときに、透明な画面の中にキリストの十字架が映し出されるように思えてきました。人を見るのではなく、そこに伝えられたキリストを感じているのです。こちらからキリストの方へ行くの

す。肺が血液をきれいにします。心臓は迎えた血液を、肺へと導くのが役割です。肺はイエスであって、キリストによって清められるように人を導くもの、それが教会であります。礼拝を通して、また様々な働きを通して、神の赦しと愛を感じることができキリストとの出会いが教会にあります。

(徳島インマヌエル教会牧師、
鳴門パウロ教会・
富岡キリスト教会管理牧師)

神戸教区第82定期教区会

教区主教開会演説

主教 アンデレ 中村 豊

2014年度の主な出来事

まず、聖職の誕生ですが、3月21日(金)に聖職按手式を神戸聖ミカエル大聖堂で挙行し、池澤隆輝・杉野達也両聖職候補生が執事に、ポール・トルハースト執事が司祭に按手されました。人事に関しては、大幅な異動を実施しました。

2年に一度の、教区事務所役員や各委員会改選の時期を迎えた今年度は、昨年度教区会で皆様の理解を求めましたように、教区諸委員会の長と教区事務所役員に30%の女性が就任しましたが、各委員の、女性が占める比率は26%(伝道区長会議・資産運用委員会除く)であり、さらなる努力が求められます。

次に、大洲聖公会信徒より、同教会に隣接する土地を寄贈したい旨、申し出があり、感謝をもって受領いたしました。教区の皆様に献金をお願い

し、2年間にわたる収穫感謝献金の目標でもあります。総工費が4500万円の岡山聖オーガスチン教会会館・牧師館建築進捗状況は順調に推移し、建物は年内に完成し、来年2月7日(土)に落成式を挙行する手はずになっております。しかし、工事費用のうち800万円が不足しておりますので、引き続き、教区関係者のご協力をよろしくお願

いたします。

神戸港に入港する船員の福祉・宣教活動を実施しておりますM+S神戸は、M+S横浜と宗教法人を合併する方向で、現在手続きが進行中です。

教区財政健全化に向けて

信徒減少に歯止めがかからず、各教会の教区費分担増額が困難な状況のなかで、2014年度から財政安定化に向けての取り組みを本格的に開始しました。主な事柄としては、伝道区基金設置と伝道区

内の教会が協働して宣教活動を分かち合うためのしくみの構築を各教会に訴えました。

この理解と協力が得られるには時間を要するものと想像していましたが、来年度牧会資金援助金申請額が、今年度比約235万円減額となり、その成果の一端が見えるかたちで現れたことに対し、信徒の方々のご理解とご協力を深く感謝申し上げます。来年度は更に、伝道区や他の伝道区の教会との交流を密にして、互いの長所、短所を分かち合いながら、協働体制を確かなものとし、伝道区基金の有効活用を期待します。

2015年度への姿勢

来年度は阪神・淡路大震災20年目と広島原爆投下70年の節目の年を迎えます。

大震災に関しては、兵庫県神戶聖ミカエル大聖堂で、神戸教区主催の礼拝は、震災当日の17日(土)、20年前にボランティアとして駆けつけた人たちを招待し、神戸聖ヨハネ教会で守られます。

広島では8月5日、6日、礼拝と記念行事が計画されており、教役者はじめ信

徒の方々の積極的な参加を期待いたします。

今年の9月17日(水)、オーストラリア・キャンベラの洗礼者聖ヨハネ教会で、64年前、八代斌助主教がアーチデー・イーコン・ロバートソン司祭に贈呈した『懺悔と和解の十字架』がキャンベラ教区主教の手から日本聖公会に返還されました。主教会で協議した結果、神戸教区がこれを保管することにしました。現在、東アジアでは、領土や、戦中に起こされた問題に関し、歴史認識の違いなどにより、国家間の関係悪化が懸念されますが、国家や地域の壁を乗り越えて、キリスト者として、平和を希求する姿勢が今こそ求められています。そのため

には、特に、明治維新から1945年までに外国との間で起こった負の事実を謙虚に認める姿勢が平和貢献につながることであり、日本を代表して八代斌助主教は、このような思いを抱いて64年前、オーストラリアを旅したのだと確信しております。

教区史編纂

ご承知のように、あと2年で、私たちは教区宣教140

年をお祝いしますが、その一環として、来年度早々より、教区史編纂作業に取りかかります。教区史は、教区編と教区編、そして関係学校・園編に分類する予定ですが、各教会におかれましても、教区史編纂に取りかかっていただくようお願いいたします。140年史には、教会に連なる人びとが教会内外を背景にした写真1枚を掲載いたしますので、来年度中に、それを教区に提出していただく必要があります。教区史編纂と平行して、2016年の復活日まで、各教会の過去と現在、未来に関するDVD作製をお願いいたします。

牧師の務め

約10年前より、定住牧師が与えられるよう、私たちは真摯な祈りを献げてきました。神はその声を聞かれ、教区に次々と聖職が誕生し、財政的に自立が困難な教会にも教役者を派遣することができました。従って、これからの教区の大きな挑戦は、各教会における宣教・牧会活動の活性化です。そのためには、何よりもまず聖公会における牧師・信徒の役割について再確

認する必要があります。

聖パウロは、コリントの教会信徒に宛てた手紙で「管理者に求められるのは、忠実である。(Iコリント4・2)」と、神に召された者の務めについて勧告しております。牧師任命式において、新任牧師は教区主教から、聖書・祈祷書・法憲法規を受領することで象徴されている通り、御言葉、サクラメント(聖餐)、牧会に忠実であるよう、牧師である司祭は召されております。

牧師は、「自らの利益ではなく人びとの幸せのみを考えてキリスト教信仰を教え、これによって教会の頭また牧者である主キリストの模範に倣うことを決心し兄弟の間にキリストの愛と平和をもたらすために自分自身の楽しみと野心を喜んで犠牲にする(司祭按手の約束の更新より)」覚悟が求められます。「牧者は群れを養わず、自分自身を養って(エゼキエル書34・8)」はなりません。常に謙遜な姿勢で信徒の様々な声を聞きわけてその願いや思いを十分に理解したうえで、賜物を活かすために、適切な場への奉仕者となるように信徒に呼びかけ、信徒と協働して牧会・宣

教活動を遂行するのです。

信徒の務め

一方、教会を様々なかたちで支えるのが信徒の主な務めです。幼児から高齢者で構成される教会において、信徒は祈りを献げ、交わりや奉仕の業に参加し、牧師と協力して教会の進歩と発展のために貢献します。何よりもまず、家庭や職場、地域社会においてキリストを証しする人として存在していることを忘れてはなりません。教会の交わりや奉仕は楽しい、あるいはその逆の声をよく聞きます。もしも、交わりや奉仕が自己満足のためとか、自己目的実現の手段となれば、教会の平安と進歩を阻害する要因となります。

社会では、組織の活性化をはかるため、定期的に異動が実施されますように、教会を活性化させるためには、役割に任期を設けることも一つの方法であると思えてなりません。それによって、より多くの信徒や教会関係者の賜物が活かされ、奉仕の業に参加することが可能となり、生き生きとした教会に生まれ変わることが期待されます。

小さな群れよ、恐れるな

人的・財政的資源不足や枯渇が原因で、宣教を策定する作業が難航している教会もあります。しかし、これを絶好の機会として捕らえ、近隣教会や同じ地域の他教派教会との協働促進の可能性を見いだせないでしょうか。群れの小さい教会は、今以上の成長は望めないと諦めてはなりません。教会を成長させるのは私たちではないからです。「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神(Iコリント3・6)」であり、「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。(ルカ12・32)」のです。



教区会での聖信50年記念表彰

11月24日(月)、大聖堂地下ホールで第82(定期)教区会が開催された。今教区会では、諸報告と11の議案が審議され、すべて承認・可決された。また、昼食後には、前田圭子氏(福島移住女性支援ネットワーク事務局)から『フクシマとわたし』というテーマの講演を聞き、原発事故から3年を過ぎた福島の実状について知ることができた。

聖信50年顕彰者

- | | | | |
|--------|----------------|----------|-------------|
| モニカ | 小林 見奈圭 | サウロ | 山本 渡海児 |
| ルツ | 津々見 富紗子 | マリア | 山本 敏子 |
| ミカエル | 高橋 哲明 | パウロ | 永田 光夫 |
| ルデヤ | 覚前 康和 | テレジア | 木本 慈子 |
| ルカ | 小松原 正彦 | ペテロ | 長 寄 羊一 |
| ペテロ | 池田 征彦 | マリヤ | 杉 村 信子 |
| ロダ | ベタニヤのマリア | マルタ | 西田 知子 |
| テモテ | 山口 楠元 | アンナ | (徳山聖マリア教会) |
| グレース | 八代 清子 | ペテロ | 宇佐見 明 |
| エステル | (神戸聖ミカエル教会) | マグダラのマリア | (米子聖ニコラス教会) |
| ペテロ | 熊沢 美代子 | マリア | 重松 千種 |
| メラニア | 國弘 安俊 | ルツ | (松山聖アンテレ教会) |
| マーガレット | 釣田 照野 | マリシア | 井上 千恵子 |
| | (神戸聖ペテロ教会) | マリーマグダレン | (高松聖ヤコブ教会) |
| ペテロ | 坂牧 綱子 | ルツ | 石原 幸子 |
| マリヤ | 古田 生夫 | マリシア | 土居 静 |
| | (神戸昇天教会) | アンナ | (高知聖パウロ教会) |
| | (明石聖マリア・ | ハンナ | 谷 睦子 |
| | マグダレン教会) | リベカ | 幡 桐 久子 |
| パウロ | 小 山 修 | フロレンス | 濱 條 知栄子 |
| モニカ | 牧 野 寿子 | テモテ | 伊丹 美恵子 |
| エステル | (姫路顕栄教会) | エリザベツ | (徳島聖テモテ教会) |
| マーガレット | 浜 野 洋子 | | |
| | (田本真光教会) | | |
| ハンナ | 常 長 秀子 | | |
| | (岡山聖オーガスチン教会) | | |
| マリヤ | 佐野 眞知子 | | |
| | (倉敷聖クリストファー教会) | | |

築城400年を祝い、創建当時の天守閣を持つ松江城、この前にある私たちの教会では、明治19年にエビントン司祭により初の受洗者10名が誕生、この日を持って松江教会誕生の日として今日に至っています。

教会史を回顧すると1885年(明治18年)3月、松江市大工町公道館長の野口敬典氏らの招きに応じてエビントン司祭が来松。三夜の演説会



は聴衆立錫の余地無し。1886年5月30日、エビントン司祭より

初めて10名が受洗。同年11月14日、ピカステス主教とエビントン司祭が来松。ピカステス主教より堅信礼10名、初の受聖餐者が誕生。続いて9名が受洗。

1891〜1902年、パークレー・バックストン司祭。1902〜1903年、荒砥琢哉司祭。

1911〜1936年、永

野武治郎司祭。

1936〜1947年、大原辰三司祭。

1947〜1969年、島田信司祭。協働教役者・末吉

信子伝道師、シモン&キャロライン・ベインズ司祭夫妻。

1969〜1994年、村瀬敬輔司祭、協働教役者・シ

モン&キャロライン・ベインズ司祭夫妻(1973年まで)。

現在の集会室が聖堂として、1966年島田信司祭時に島根県建築士協会会長の高橋貞三郎設計で完成。1986年、村瀬敬輔司祭在職中に坂本知三氏の設計で奥に新聖堂が完成。中道淑夫主教により聖別されました。

聖壇上に掲げられているステンドグラスは、旧約と新約聖書に題材を取り、オリーブの枝をくわえて帰る鳩、百合の花と葡萄、誕生のイエスと祈りを捧げるマリアにラテン語「PAX DOMINI」の文字が添えられています。

「松江には、バックストン牧師が居た。同じ英国人でもラファディオ・ハーンとあまり気が合わなかったらしい。バックストン以来、いろいろと牧師が駐在した。しかし

本

当の松江の牧師は終始一貫、イエス・キリストさんであった。」(八代欽一主教の松江基督教百年史「1986年刊行」巻頭言より。)

婦人会バザーを毎月開催、ささやかな収益を被災地や諸教会へ捧げ、礼拝後に集うホールには、歴代聖職の写真と島根洋画の先駆者、草光信成の油絵によるバックストンの肖像画があり、訪問者に喜ばれています。

2009年には聖堂と牧師館の屋根および外壁の修繕に神戸教区の皆様のご支援を仰ぎ施工。昨年から若い聖職、杉野達也執事が来松。昨秋には神戸教区青年交流会役員会が開催され、今春には神戸教区青年交流会が当教会で開催される予定です。新しい宣教と伝道の日々が始まるうとしています。

(松江基督教会 アンデレ 石野 眞)

初日は、釜山教区主教のパク

主教の司式による開会聖餐式が行われ、説教の中で植松主教は、まことの和解と平和の根拠となる「赦し」について語られました。2日目は上原沖繩教区主教による聖書研究の後、聖公会大

学教授のヤン司祭より「過去の歴史に対する反省と信仰的赦しと和解」と題した基調講演があ

りました。午後からは両聖公会から「宣教協働の歴史と成果」、「40年に向けた課題と展望」と題した発題があり、宣教課題の提起がなされました。その後、グループに分かれてディスカッションを行い、感想や問題を話し合いました。3日目は聖書研究の後、日本聖公会から憲法9

条・沖繩・原発・ヘイトスピーチの報告、大韓聖公会からはGFSの脱北女性支援プロジェクト・南北平和統一宣教の報告がなされ、その後にはグループディスカッションが行われました。

最終日は、1948年4月3日から始まり、約7万人の犠牲者を出した済州島の「三・四事件」を記念した平和公園で日韓両聖公会の全現役主教による歴史的な追悼の祈りが捧げられ、その後、平和記念館を見学しました。最後に済州島の教会にて日韓の青年たちの司式で閉会礼拝が行われ、1984年から行

われている宣教協働30周年に当り、今日までの宣教協働関係を振り返り、現在の状況を直視しつつ、東アジアにおける両聖公会の役割について協議し、さらなる相互理解と宣教協働に取り組むことを決意した会議をキム議長主教の説教、ユ大田教区被選主教の祝辞を持って閉会しました。

司祭 バルナバ 瀬山 会治

日韓聖公会宣教協働30周年記念大会は、2014年10月20日(月)から23日(木)まで、韓

国の済州島のイシドール黙想の家において「いのち・正義・平和」を主題として大韓聖公会3教区、日本聖公会11教区から87名の聖職・信徒が参加して開催されました。

日韓両聖公会は2004年に福岡市で作成された共同声明に基づき、青年セミナー、社会宣教に関する韓国スタディーツアー、世界聖公会平和協議会の開催や韓国人宣教協働者の招聘など多様な宣教協働に取り組みできましたが、この10年間の評価と反省、今後の課題について話し合われました。

初日は、釜山教区主教のパク

**平和の島・済州島での
日韓宣教会議**

司祭 バルナバ 瀬山 会治



アンデレ 石野 眞

ベテル・フェローシップに参加して

司祭 マルコ 平野 一郎

11月4日(火)～7日(金)にかけて、日本聖公会九州教区センターと福岡ベテル教会を拠点にして、ベテル・フェローシップが開催され、神戸教区からは私が参加しました。

このベテル・フェローシップというのは各教区の聖職が一人ずつ集まって、説教を再認識するというのが一つの目的でした。

説教の講師は西南学院大学の説教学などを担当している片山寛神学部教授で、教授は特に名説教者と言われたシェライエルマツハーの特徴である「共同体の語り」としての説教やカール・バルトの「神の語り」としての説教について述べられました。

その中で講師が強調されたこととして、説教は「分かりやすさ」が大切であり、認識可能ということで理解できること、主張があるということ、賛同できること、なるほどというように思い当たるとい

う要素が入っていることが重要だと語られました。

そのためには具体的に説教は「話し言葉」を使うことが必要であり、①主題提示、②その展開、③視点を交えて例話、④結びとしてのまとめという起承転結の4部構成がはつきりとしているべきであるという話しもされました。

その後、2グループに分かれて、解説書などを参考にしながら、皆で意見を出しながら説教の準備をして、作成し、説教をまとめ、最後の日に福岡ベテル教会の信徒さんの前で、2グループの代表者が説教を披露しました。

この研修会は教区間の聖職者の交流という目的もあり、普段、私は他教区の聖職と交流を持つことが無かったことで、色々と皆で話ができたとが新鮮であり、貴重な体験をすることができ、大変、良かったです。

今回、説教の研修について、自分自身の課題を見つめながら、さらに今後、説教の要点がはつきりしない、わかりにくい説教ではなく、起承転結やテーマが明確で、分かりやすい説教を作ることを目指していこうと思いました。

聖オーガスチン教会

建築奮闘記⑨

ジョセフィン 加藤 正恵

教会ホール・牧師館が完成します。まずはご支援、ご協力をして下さった皆様

に心から感謝申し上げます。徐々に完成する建物を見てみると、希望と不安が心をよぎります。「思っていたのより狭い。」「天井も低いな。」「図面通りなのに平面図だけでは分からない。」「駐車場も砂利より舗装が良かったな。きつと私の欲なのでしよう。牧師館ももっと広くしたかった。でもお金の

ことがあるから、今はこれが精一杯。

しかし、牧師館の窓から見える銀杏の木は見事でした。いつもは見上げていただけの大木でしたが、堂々と茂った枝振りには目の高さがあり、秋には黄金色に輝いていました。木枯らしが吹くと葉はすべて落ちますが、春になると可愛い新芽が出て、夏には青々と茂ります。そして、もう一つ残したものは、「天使のタイル画」です。聖オーガスチン幼稚園があったころのものです。今度はホールの中に飾ります。私たちは「天使のタイル画」をもとにして「天使の小さなステンドグラス」をみんなで作りました。過去を引き継ぎ、未来に渡す。現在の私たちがしなければならぬことです。

落成式は2月7日となりました。寒い季節ですが、どうぞ一緒に祝ってください。立派なことは出来ませんが、皆様の笑顔が見たいのです。

ここからです。これから



どのような宣教が出来るのか？今まで神様がこの小さな教会を守って下さった事に感謝して、これからの私たちは何が出来る、何が出来ないのか？良く考えて、神様の導きにより歩みたいと思えます。どうぞ、これからの私たちのために祈り下さい。

「豊かさ」に フィリピンで経験する

司祭 ヨシユア 長田 吉史

12月1日から4日まで、九州教区主催のフィリピンアドヴェントツアーに参加しました。この企画は、毎年3月頃に行われているワークキャンプでお世話になっている教会を訪問して交流する、というものです。



この度はサ
ンタイネスの
聖アグネス教
会、そしてバ
ンリックの聖
ピリポ・聖ヤ
コブ教会を訪
ねてきました
が、そこはこ
れまで神戸教
区から参加し
た何人かの青
年も訪れたこ
とのある教会です。

参加した青年はそこでたくさ
んの出会いがあり、また様々な
状況を見聞きして感じ、有意義
な経験をしてきました。その一
つは「豊かさ」だと思えます。
もちろん、フィリピンにも豊
かな大都市があります。しかし
そこから少し離れると、街とし
ては発達していても、その中

困窮化に置かれている方々、ま
た電気や水などが無い村では、
日々仕事を求めて生活をしてい
る方々がおられます。でも、そ
こでは一つの教会が、或いは村
全体がまるで家族のようにお互
いに助け合い、分かち合ってい
るのです。その輪の中に、突然
やってきたワークキャンプの参
加者でさえも迎え入れ、手厚い
おもてなしを与えてくださるの
です。そのような、いわば心の

「豊かさ」に満たされることを
参加者の誰もが経験
してきているはずで
す。

人と人とのつなが
り、そしてその中で
満ち溢れている心の
「豊かさ」、これは日
本でも経験できま
す。でも、よりはっ
きりと経験できるそ
の「豊かさ」にフィ
リピンの家族が、仲
間が私たちを導いて
くれるのです。忘れていた「豊
かさ」に戻してくれるのです。

私自身、この度もそのことを
再度経験してきました。だから
こそ、そのような輪の中を神戸
教区の色んな方々にも経験して
いただきたいと思いますし、こ
れからもこのワークキャンプの
ためにお祈りいただきたく思っ
ています。

鳩だより 《敬称略》

祝 洗 礼

11月30日(日)
アンデレ 北村 誠
徳島インマヌエル教会

12月7日(日)
マリヤ 年岡 志津
米子聖ニコラス教会

12月21日(日)
フランチェスコ 山本 晴
呉信愛教会

12月25日(木)
セシリア 忽那 洋子
ロザリア 忽那 史子
神戸聖ミカエル教会

祝 堅 信

11月9日(日)
モニカ 元木 まりあ
フェイス 松崎 真奈
徳島聖テモテ教会

12月7日(日)
マリヤ 年岡 志津
米子聖ニコラス教会

12月21日(日)
エリザベツ 吉本 ゆかり
フランチェスコ 山本 晴
呉信愛教会

12月25日(木)
セシリア 忽那 洋子
ロザリア 忽那 史子
神戸聖ミカエル教会

祝 聖 婚

10月4日(土)
ヨシヤ 阪村 翔
佐々木 三子
神戸聖ミカエル教会

ご 逝 去

11月9日(日)
ヨハネ 山下 忠順
神戸聖ベテロ教会

11月11日(木)
ベタニヤのマリア 小川 陽
神戸聖ミカエル教会

11月23日(日)
ヨハネ 足立 好広
米子聖ニコラス教会

12月13日(土)
アンデレ 北村 誠
徳島インマヌエル教会

神戸伝道区

◎神戸聖ヨハネ教会
11月9日(日)、明石聖マリ
アマグダレン教会と合同礼拝の
後、神戸伝道区諸教会の協力を
得てバザーを開催した。

◎神戸聖ベテロ教会
11月30日(日)、八代智司祭
に黙想指導をして頂き、恒例の
降臨節黙想会を行い、クリスマス
に向け、良い準備を行うこと
ができた。

2月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2015年2月5日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 中村 豊
説教 司祭 長田 吉史

* 2月の記念逝去教役者*

3日	司祭	ハリイ	ウッドワード
5日	司祭	パーク	バックストン
5日	司祭	ヤコブ	野興三
6日	司祭	モーセ	尾内昇
7日	宣教師	ホノリア	竹内宗一
11日	宣教師	ヨハネ	ウオーゾン
12日	宣教師	ヨハネ	中道政
12日	宣教師	ヨハネ	小南アサ
13日	宣教師	フレンジ	高木ギル
16日	宣教師	ジョージ	ブライドル
17日	宣教師	ジョセフ	田中愛次
20日	宣教師	ヨセフ	西村ひろ
23日	宣教師	アリス	西村ひろ

3月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2015年3月5日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 中村 豊
説教 司祭 小林 尚明

* 3月の記念逝去教役者*

3日	司祭	フレッド	ケテルウ
6日	宣教師	アリス	ロバ
11日	宣教師	アンジェ	オグレ
12日	宣教師	ヤコブ	八代
13日	宣教師	エリザ	明山
16日	宣教師	ベック	ナッレ
17日	宣教師	エリザ	アガ
17日	宣教師	フロレン	フナ
21日	宣教師	オリビ	ナ
22日	宣教師	オナ	瀬中
22日	宣教師	オナ	田中
22日	宣教師	オナ	尾中
25日	宣教師	エリザ	川尾
27日	宣教師	エリザ	中尾
27日	宣教師	ウオス	ウエ
29日	宣教師	オス	栗原
30日	宣教師	オス	栗原
31日	宣教師	オス	栗原